

大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の句のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。



「追イカケッコ」

夏、姿見ヲ賑ワセタ、色トリドリノ花々。
夕焼ケ色デ彩リヲ増シタ、秋ノ葉。
大雪山八、人ト自然デ何時モ賑ワッテイタ。

ヤガテ絢爛ノ饗宴ハ、日ゴト森ヘト降りテユク。
旭岳温泉、忠別ノ河畔、羽衣ノ滝ヲ彩ル紅葉ガ、
一枚、又一枚ト落ちテユク。
在レホド、賑ワッテイタ山。

「アレハ夢？」ト、見間違ウ程、山ハ静ケサラ取り戻シテイタ。

誰も居ナクナッタ姿見。

フト山ヲ見渡スト、白イ頂ガ何時ノ間ニカ、目ノ前マデ迫ッテイル事ニ気付ク。

ヤガテ白イ雪ハ、一進一退ヲ繰返シ、森ヘト降りテ来ル。

「気ヅイタカイ？ 紅葉ト雪ノ、追イカケッコ。」
誰も見テナイ所デ、静カニ山ハ躍動シテイル。
其ノ証拠ニ.....

シマリス達、

此レガ最後トバカリ、寝床ト食糧ヲ慌シク巢穴ヘ運ンデイルカモ知レナイ。

ユキウサギ達、

薄ッスラ積モッタ雪面ニ、沢山、足跡ヲ残シテイル。

トコロデ、罷八何ヲシテイル？

何時ダッテ見カケナイ奴。デモ、気配ハ感じテイル。

天女ヶ原ノ木道ヲ下ル、雪ノ足跡。

不自然ニ倒レタ、草ノ道。

道路ヲ横切ル、黒影。

ソシテ彼モマタ、麓ノ森ヘト降りテ行クノダロウ.....

旭岳パークレンジャー & ガイドツアークラブ ~クウエリ~
山本 行秀

短歌

自転車で片手にジューズ飲みてゆく若者の罐の行方気になる
紫陽花のかげりの冷えに蝸牛粘れる角を鈍く動かす
待ちわびしあじさいの花見頃なり赤むらさきに庭をいろどる
一滴のか細き管は生命綱深夜放送ひとりの世界
岐登牛に集い訪うや先輩の歌碑に時雨るるえぞ蝉の声
久ひさに墓参の帰り姉訪えば白髪に見える母の面影
四十年も暗室の検査奈良先生想い出残し浄土に召され
それぞれの修羅越えて来し娘等の言葉おもたし卒寿近き我れ
ただ一歩踏み出しそね秋桜の揺るるがままをただに見てある
休耕になりて久しき田の面につめ草咲きてしばし癒さる
盆さなか先祖思ふも来る年はやがて吾かと憂ふりかえる
盂蘭盆も終り曾孫も帰たり廊下にはぼつりと紙ヒコキあり
銀色の恨みの言葉引き摺りて角だせ槍出せかたつむり這ふ
春よりは色も鮮やか吾亦紅ひと枝おりに仏に供ふ

俳句

人恋ふころ惜しまず燃せ曼珠沙華
夕映えのいろ抱きしめて夏終る
花芙蓉冥王星を偲ぶ夜
廃駅舎人恋ふごとく紅芙蓉
青空の雲掃く風の爽やかに
箱根路や芒ヶ原の爽やかさ
芙蓉咲く紅の大輪タンゴを踊る
古家敷忘れじと咲く白芙蓉
ダッチコーヒー滴り刻む秋の窓
爽やかな瞳を置いて旅の人
かざす手に寝みだれ髪に残暑かな

宮坂 露葉 雲
小林 吐苦 葉
徳光 り苦 葉
杉山 久美 子
澤田 久美 子
松山 蓉子
山口 佐知 子
山崎 佐知 子
杉山 佐知 子
秋山 深雪
石澤 清宏
青野 公花

那須 喜美
瓜生 昭枝
岩田 ふじえ
松倉 和子
嶋崎 ミ子
笹田 富士子
岡澤 ちず子
矢沢 ます子
宮坂 敬子
中田 治子
清水 子
永江 栄子
井山 一子
尾池 真沙子